

「環境と経営—静岡産業大学論集—」執筆要項

1. 原稿は締切期日を厳守すること。
2. 原稿は横書きとすること。
3. 原稿は本学経営研究所所定の200字詰原稿用紙を用いること。ワード・プロセッサを用いる場合は、A4判用紙を使用し、邦文は40字×30行程度とし、欧文は75字×40行とする。その場合、印刷の間違いをなくするために、できれば原稿フロッピーも同時に提出すること。
4. 原稿の表紙に題名、欧文タイトルおよび氏名を明記すること。
5. 原稿の種類は、「論文」「研究ノート」「資料紹介」「書評」「学会展望」「新刊紹介」および「翻訳」とし、上記以外の原稿の種類については運営委員会で検討する。
6. 「翻訳」は翻訳者が翻訳権を取得しておくこと。
7. 原稿の種類名を表紙左上に明記すること。
8. 原稿枚数は、脚注、図および表を含めて、
「論文」は、200字×100枚程度
「研究ノート」「資料紹介」は、200字×60枚程度
「書評」は、200字×25枚程度
「学会展望」「新刊紹介」は、200字×15枚程度
「翻訳」は、200字×100枚程度、とする。
9. 原稿は、原則として現代かなづかい、および当用漢字を使用すること。
10. 注は、脚注とするため、当研究所所定の原稿用紙の脚注欄に書くか、もしくは原稿用紙に書いて本文原稿末に挿入すること。
11. 注番号は、本文中の右肩に1) 2) 3) ……のように書き、通し番号とすること。
12. 図および表の見出しは、第○図、第○表とし、各々通し番号をつけ、出典をそれらの下に明記すること。
13. 連載原稿は、括弧付アラビア数字とする。例 (1)(2)…
14. 目次は、原稿の最初に記すこと。
15. 原稿中における章、節および項は原則として、
章は大見出しとし、I、II、III、……（ローマ数字大文字）を用いること。
節は中見出しとし、1、2、3、……（アラビア数字）を用いること。
項は小見出しとし、(1)、(2)、(3)、……（括弧付アラビア数字）を用いること。
16. 引用文については、邦文は「」、英文は“ ”とし、引用文中の引用文についてそれぞれ『』、‘ ’を用いること。ただし独・仏・伊・露文等はそれぞれの慣行に従う。
17. 邦文の著書名、雑誌名は『』、論文名は「」で囲むこと。
18. 欧文の著書名、雑誌名はイタリック体を用いること。
19. 邦文の引用文献および参照文献の表示の仕方は、
単行書：著者、書名、発行所、発行年、引用および参照文献のページの順とする。
例：守永誠治『非営利組織体会計の研究』慶応通信、平成元年（1989年）、28～30ページ。
論文：著者、論文名、雑誌名、巻号、発行年、引用および参照ページの順とする。
例：小林達夫「水資源の開発・管理と日本史における政治権力の独立(1)」『環境と経営』（静岡産業大学）第1巻第2号、1995年、10～12ページ。

20. 欧文の引用文献および参照文献の表示の仕方は、

単行書：著者、書名（イタリック体）、発行地、発行所、発行年、引用及び参照ページの順とする。

例：Paul A. Samuelson, *Economics* 13th ed., New York, McGraw-Hill, 1989,
pp. 100～102.

または

Samuelson, Paul A., *Economics* 13th ed., New York, McGraw-Hill, 1989,
pp. 100～102.

論文：著者、論文名、雑誌名（イタリック体）、巻号、発行年、引用および参照ページの順とする。

例：Randall A. Bluffstone, “The Effect of Labor Market Performance on Differentiation in Developing Countries under open Access : Example from Rural Nepal”, *Journal of Environmental Economics and Management*. Vol. 29, No. 1, 1995, pp. 42～45.

21. 重ねて同じ文献を引用および参照する場合の表示の仕方は、

邦文：引用ページが同じ場合、同上とする。ただし引用ページが異なる場合はページをも表記する。 例：同上書、56ページ。

英文：引用ページが同じ場合は *Idem.* とする。

引用ページが異なる場合は *Ibid.* ページとする。例：*Ibid.*, pp. 50～56.

間隔をおいて再度同じ文献を引用および参照する場合は、著者名、書名、ページのみを表記する。

22. 邦文著書の「書評」「新刊紹介」は原稿末尾に発行所、発行年月、判型、ページ数および定価を括弧内に明記すること。

例：（日本経済評論社、1995年4月刊、A5判、546ページ、6180円）